

狩野川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～全国有数の観光資源を有する伊豆の玄関口を洪水氾濫から守る流域治水対策～

資料-2

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、狩野川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 狩野川は日本有数の多雨地帯である天城山系に源を発し、伊豆半島の大小の支川を合わせ北流し、田方平野を大きく蛇行しながら各支川が加わることで水量が増し、外水による水害リスクの高い地域であることから、河道掘削等の河川整備を実施する。
- これらの取り組みにより、国管理区間においては戦後最大の昭和33年狩野川台風による洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避する。
- 加えて、令和元年東日本台風で顕在化した中上流部の内水被害に対して、国・県・市町が連携し、本川支川の河道掘削や排水機場の整備、水田貯留等の流出抑制対策、さらには安全なまちづくりに向けた取り組み等を、短期・中期の期間において強力に推進し、浸水被害を軽減する。

【位置図】



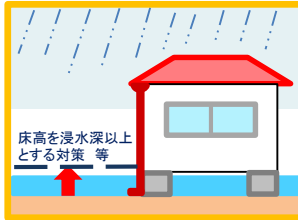
河道掘削



水田貯留



砂防施設の整備



建築物の浸水対策(イメージ)

●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、堤防整備、河道拡幅、橋梁改築
- ・流出抑制対策
(貯留施設、水田貯留 等)
- ・内水被害軽減対策
(排水機場整備、既存排水機場の遠隔操作化、近年の洪水被害軽減目標と対策を定めた水災害対策プラン※の策定 等)
- ・砂防施設の整備
- ・森林整備・保全
- ・海岸施設の保全
- 等

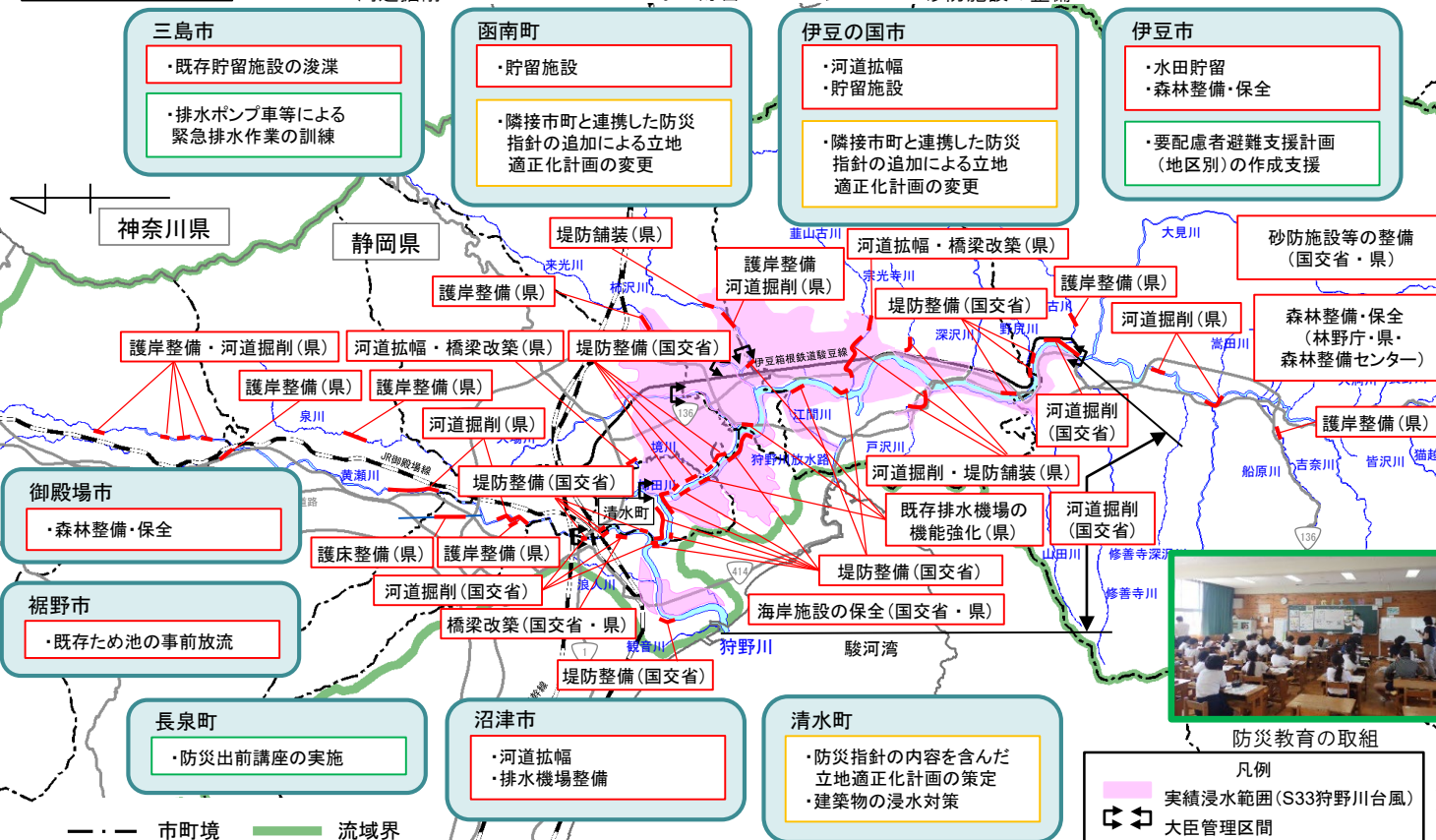
●被害対象を減少させるための対策

- ・防災・減災のための住まい方や土地利用の推進
(防災指針の追加による立地適正化計画の変更 等)
- ・浸水ハザードエリア等における浸水対策
(建築物の浸水対策 等)
- 等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・被害軽減対策
(水害リスク空白域の解消、内水ハザードマップの作成 等)
- ・住民の主体的な避難行動を促す取組
(ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保、防災教育・出前講座による住民の防災意識向上のための取組、マイ・タイムラインを活用した訓練の実施、地区防災計画の推進、官民連携による河川情報の提供 等)
- ・水防体制の強化
(緊急排水作業の訓練実施、建設業等との連携による災害復旧の迅速化・効率化 等)
- ・ソフト対策のための整備
(情報収集施設の整備 等)
- 等

●グリーンインフラの取組 詳細次ページ



防災教育の取組



建設業等との連携(イメージ)

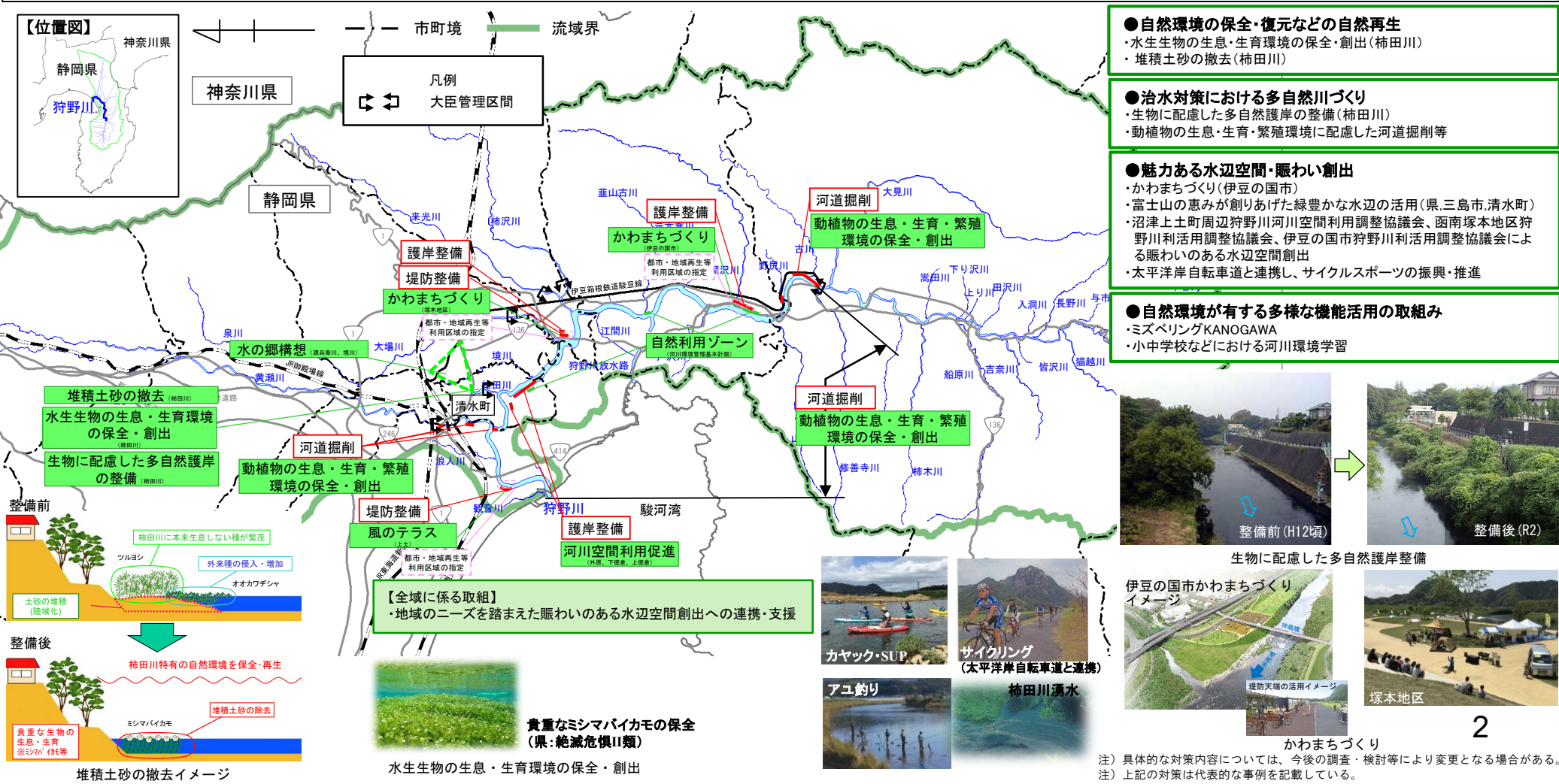
※：令和元年東日本台風における沼津市、三島市、伊豆の国市、函南町、清水町での内水被害を踏まえ、被害軽減目標及びその対策内容について、とりまとめるもの。

注) 具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
注) 上記の対策は代表的な事例を記載している。

狩野川水系流域治水プロジェクト【位置図】

●グリーンインフラの取り組み 『観光資源を活用した水辺空間創出と豊かな湧水環境の保全・創出』

○伊豆半島の豊富な観光・自然資源やジオサイトを活用した水辺空間の創出のため、今後、概ね２年間（令和５年度）で、伊豆の国市かわまちづくりによる流域の拠点となる取組などを進めるとともに、富士山麓の湧水を水源とし、湧水環境に依存する貴重な生物（絶滅危惧種25種）が生息する柿田川において、概ね４年間（令和7年度）で、自然再生の取組を進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



狩野川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～全国有数の観光資源を有する伊豆の玄関口を洪水氾濫から守る流域治水対策～

【事業費(R2年度以降の残事業費)】

- 河川対策 全体事業費 約161億円※1
対策内容 河道掘削、堤防整備
河道拡幅、橋梁改築 等
- 砂防対策 全体事業費 約154億円(国)※2
対策内容 砂防堰堤、流木対策等
- 海岸対策 全体事業費 約148億円(国)※3
対策内容 海岸施設の保全等

※1:直轄及び各水系の河川整備計画の残事業費を記載
※2:直轄砂防事業の残事業費を記載
※3:直轄海岸保全施設整備事業の残事業費を記載

- 狩野川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】狩野川流域の人口・資産の集中する地区での氾濫被害を防ぐため、河道掘削・堤防整備等により浸水面積の減少を図るとともに、砂防施設の整備等による土砂流出防止対策を中長期も含め実施。
あわせて、建築物の浸水対策、内水ハザードマップの作成、地区防災計画の推進、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進、マイ・タイムラインの推進を図る。
- 【中期】河道掘削・堤防整備等の推進により更なる浸水面積の減少を図る。あわせて、建築物の浸水対策、マイ・タイムラインを活用した訓練等を継続的に実施。
- 【中長期】河道掘削・橋梁改築等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。あわせて、建築物の浸水対策の実施、マイ・タイムラインを活用した訓練等を継続的に実施。

【ロードマップ】

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、河道拡幅、橋梁改築 等	国土交通省 静岡県、沼津市、伊豆の国市	(国)令和元年東日本台風を踏まえた河道掘削の実施、 (県)河川整備計画に基づく支川の河道掘削、堤防整備	下流部の堤防整備 (国)中上流部の堤防整備 (県)中下流部の支川の河道掘削、堤防整備	(国)上流部の河道掘削 (県)上流部の支川の河道掘削、堤防整備
	流出抑制対策(貯留施設、水田貯留等)、内水被害軽減対策(排水機場整備、水災害対策プランの策定 等)	国土交通省 静岡県、沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町	● 水災害対策プラン策定 (市町)貯留施設、水田貯留の整備 (県市)排水機場の増強・新設		
	砂防施設等の整備、森林整備・保全	国土交通省、林野庁、静岡県、御殿場市、伊豆市、森林整備センター		砂防施設等の整備、森林整備・保全	
被害対象を減少させるための対策	建築物の浸水対策	清水町	(町)関係機関との連携・調整	建築物の浸水対策の実施	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	内水ハザードマップの作成	流域市町	(市町)内水ハザードマップ作成	(市町)内水ハザードマップ更新	
	地区防災計画の推進	流域市町	(市町)地区防災計画の作成・推進	(市町、建設業)地区防災計画を活用した訓練の実施	
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	流域市町	(市町)避難確保計画の作成・推進	(市町)避難確保計画に基づいた訓練の実施	
	マイ・タイムラインの推進	流域市町	(市町)マイ・タイムラインの作成・推進	(市町)マイ・タイムラインを活用した防災教育、訓練の実施	
グリーンインフラの取組	伊豆の国市かわまちづくり	国土交通省、伊豆の国市	(国市)水辺整備、(市)Park-PFIによる堤防天端整備	(市町)道の駅や周辺市町とのタイアップ、飲食店	MTBコースを活用した国際大会の開催等
	柿田川自然再生	国土交通省、清水町	(国市)モニタリング・外来種駆除・在来種再生の実施、環境学習等の取組継続		
	水の郷構想	静岡県、三島市、清水町	【広域対策】拠点間のアクセス向上・周遊化、地域と連携した観光拠点化、【拠点整備】丸池の公園的利用、既存清浄緑地の活用		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

狩野川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】（素案）

～全国有数の観光資源を有する伊豆の玄関口を洪水氾濫から守る流域治水対策～

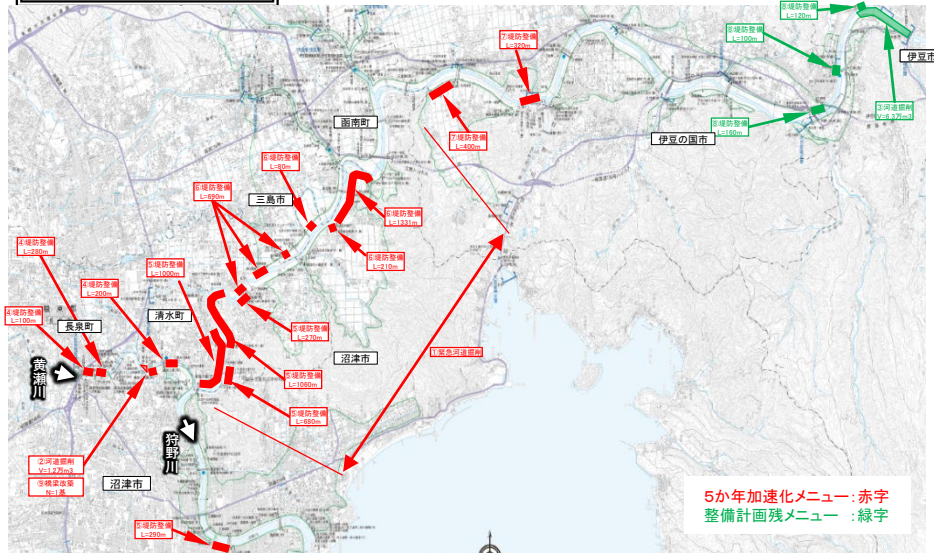
※本資料は調整中のものであり、今後変更が生じる可能性がある。

短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率※ 約95%→約98%

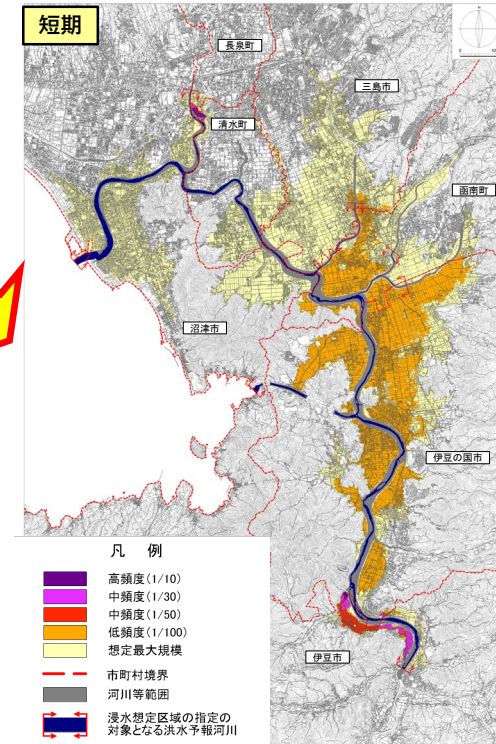
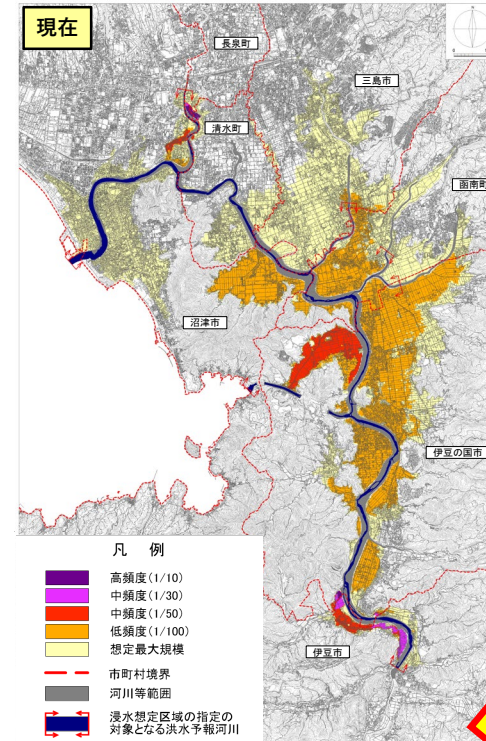
※整備計画目標流量を安全に流すことができる区間の達成率

狩野川では狩野川放水路より下流の河道掘削・堤防整備等を令和7年度までに実施することにより、中流部の浸水に対する水害リスクを減少させることが可能。

実施箇所・対策内容



※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。



区分	対策内容	地区	R4		
			【5か年加速化対策】短期(R3~R7) 1/10~1/10	中期(R8~R12) 1/10~1/30	中長期(R13~R16) 1/30~1/50
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	緊急河道掘削	①管内	0% → 100%		
	河道掘削	②沼津市大同地区～清水町長沢地区	0% → 100%		100%
		③伊豆市修善寺地区	0%		
	堤防整備(支川)	④黄瀬川地区	0% → 90%		100%
	堤防整備(本川)	⑤香貫大橋～徳倉橋	0% → 100%		
		⑥徳倉橋～新城橋	0% → 100%		
		⑦新城橋～狩野川放水路	0% → 100%		
		⑧狩野川放水路～修善寺橋	0%		100%
	堤防浸透対策	管内			0% → 100%
	橋梁架替	⑨黄瀬川大橋(国交省・県)	0% → 100%		

【短期整備完了時の進捗】
①沼津河川国道事務所管内 緊急河道掘削 0%→100%
④黄瀬川地区 堤防整備(支川) 0%→90%
⑤香貫大橋～徳倉橋 堤防整備(本川) 0%→100%
⑥徳倉橋～新城橋 堤防整備(本川) 0%→100%
⑦新城橋～狩野川放水路 堤防整備(本川) 0%→100%
②⑧河道掘削・橋梁架替 黄瀬川大橋 0%→100%

※：流域治水プロジェクト策定時を0%としています

注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。

狩野川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】（素案）

～全国有数の観光資源を有する伊豆の玄関口を洪水氾濫から守る流域治水対策～

※本資料は調整中のものであり、今後変更が生じる可能性がある。

戦後最大洪水等に対応した河川の整備率



整備率 集計中
(令和7年度末時点)

農地・農業用施設の活用



集計中
(令和〇年〇月時点)

流出抑制対策の実施



集計中
(令和〇年〇月時点)

山地の保水機能向上・土砂・流木対策



治山対策・森林整備
集計中
(令和〇年〇月時点)
砂防事業による保全箇所
集計中
(令和〇年〇月時点)

立地適正化計画における防災指針の作成



集計中
(令和〇年〇月時点)

水害リスク情報の提供



洪水浸水想定
集計中
(令和〇年〇月時点)
内水浸水想定
集計中
(令和〇年〇月時点)

高齢者等避難の実効性の確保



避難確保計画
集計中
(令和〇年〇月時点)
個別避難計画
集計中
(令和〇年〇月時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〇堤防整備(国交省)



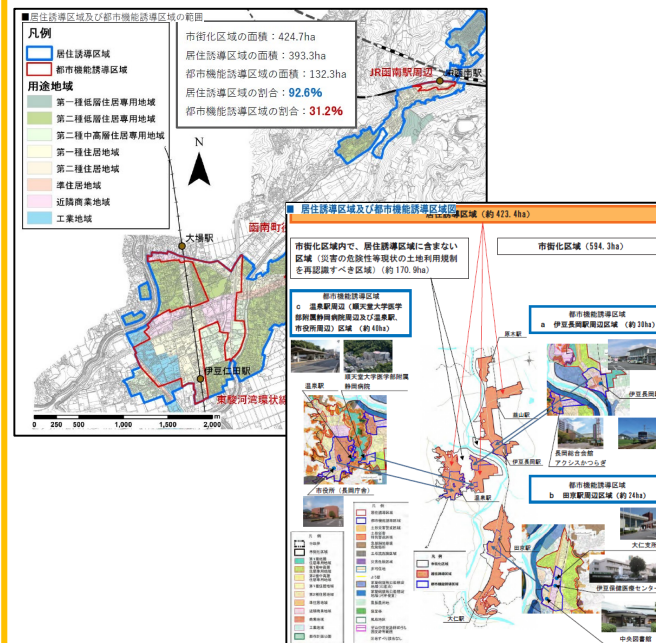
〇雨水調整池堆積土砂の掘削(三島市)



堤防整備等により治水安全度の向上を図る他、雨水調整池堆積土砂の掘削等により浸水被害の軽減を図る。

被害対象を減少させるための対策

〇防災指針の追加による立地適正化計画の変更(伊豆の国市、函南町)



伊豆の国市、函南町の2市町が連携し、防災指針を追加した立地適正化計画の変更を実施予定。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

〇要配慮者施設での避難訓練実施(裾野市)



〇防災出前講座の実施(伊豆市)



住民の主体的な避難行動を促す取組として要配慮者施設での避難訓練の実施、地域の住民を対象とした防災出前講座等の実施。